令和８年５月26日（火）朝刊　静岡新聞

もっと広がる クスリの世界

手術前・検査前の薬の中止

安全な医療行う調整

手術や検査の前に「薬を中止してください」と説明され、不安に感じる方は少なくありません。いわゆる手術前・検査前の中止薬は、安全に医療を行うための重要な調整です。

代表的なのは、血液をさらさらにする「抗血栓薬」です。血液を固まりにくくするこれらの薬は、心筋梗塞や脳梗塞の予防に不可欠ですが、手術中や術後に出血が止まりにくくなるリスクがあります。そのため、手術の内容や出血リスクに応じて、一定期間の休薬が検討されます。ただし、自己判断で中止すると血栓症を招く危険があるため、必ず医師の指示に従うことが重要です。

また、糖尿病治療薬にも注意が必要です。絶食を伴う検査や手術では、食事を取らないことによる低血糖を防ぐため、内服薬や注射薬の調整が行われます。さらに、造影剤を用いる検査では、副作用や腎機能への影響を考慮し、一時的に中止する薬剤もあります。

加えて、女性ホルモン剤なども中止の対象となる場合があります。一部のホルモン療法薬や経口避妊薬は血栓を形成しやすくする可能性があり、長時間の安静が必要な手術前には、安全性を優先して休薬が検討されます。疾患の種類や治療目的によって対応は異なるため、個別の判断が欠かせません。

近年は薬剤の多様化に伴い、中止の可否や期間の判断はより複雑になっています。そのため、医師だけでなく薬剤師も関与し、患者さんごとの状態や併用薬を踏まえて、手術の安全性と日常の治療の継続とのバランスを慎重に検討しています。

患者さんにとって大切なのは「いつもの薬をどうするか」を遠慮なく確認することです。お薬手帳やサプリメントの情報も活用し、服用中の薬剤を正確に伝えることが、安全な医療につながります。薬の中止には医学的な理由があり、それを理解することが安心への第一歩となるでしょう。

（加藤　寛史・県病院薬剤師会常任理事）

＜毎月第４火曜日に掲載＞